

として残る形質をもつことがわかった。そこで今回の分離種は新種と認め、**Schizochlamydelia sphaerica** S. Watanabe の名称を与えた。また Fott & Nováková (1969) は *Chlorella* 属はゼラチン質を欠くと特徴づけているので、これに従い、*C. capsulata* は属を移動し、**Schizochlamydelia capsulata** (Guillard, Bold et Mac Entee) comb. nov. の新組合せを提案した。

References

- Archibald, P.A. and H.C. Bold, 1970. The genus *Chlorococcum* Meneghini, Phycological Studies XI. The Univ. of Texas Publ. No. 7015, 115 p. Austin.
- Fott, B. and M. Nováková, 1969. A monograph of the genus *Chlorella*, the fresh water species. Stud. in Phycol. ed. by Fott: 10-74. Prague.
- Fott, B., 1974. Taxonomie der palmelloiden Chlorococcales (Familie Palmogloaceae). Preslia 46: 1-31.
- Guillard, R.R.L., H.C. Bold and F.J. Mac Entee, 1975. Four new unicellular chlorophycean algae from mixohaline habitats. Phycologia. 14: 13-24.
- Smith, G.M., 1922. The phytoplankton of some artificial pools near Stockholm. Ark. Bot., Stockholm 17/13: 1-8.
- Watanabe, S., 1977. The genus *Chlorella* (Chlorococcales) from Japanese soils. Journ. Jap. Bot. 52: 97-106, 129-136, 169-178.

□井上 浩：続日本産苔類図鑑 i~viii, 1~193, 1976年11月, 築地書館 11,000 円。

本書は絶賛を博した「日本産苔類図鑑」の続巻で、前著と同じスタイルで78種の苔類が扱われている。今回は葉状性の種も多く取りあげられており、苔類の蠱惑的な多様な世界が見事に描き出されている。苔類の形態は細部に至るまで存外に規則的であり、その写生図は一画といえどもおろそかにできないが、従来の諸家の図には、観察の不足や描画の技術の拙劣さから、本書の図に比肩する正確で美しいものはほとんどない。多年にわたる精力的な研究によって培われた著者の眼力は確かであり、傑出した描画技術と相俟って、進捗著しい現代の苔類分類学の要求に応える、優れたイコネスを生み出した著者の努力に対して深甚の敬意を表したい。また、分類学的な問題点を剔出する著者の才能は抜群であり、本書の解説記事（英文）には、新亜目、新科、新亜科、新亜属を含めオリジナルな見解が枚挙にいとまがないほど数多く盛り込まれている。続巻も前著と同じ体裁の豪華本でかなり高価であるが、萌黄色と縹色の上品なコントラストをなす正統2巻はいかにも垢抜けしたデザインで、内容ばかりでなく外観もまことに秀逸であり、計2万円をはたいてもぜひ購入したくなる魅力をそなえている。なお、本書に関する詳しい書評は「藓苔地衣雑報」に投稿中である。（北川尚史）